

研究・調査報告書

報告書番号	担当
220	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
Light to moderate alcohol consumption and disability: variable benefits by health status. 軽・中等度アルコール摂取と障害：健康状態別にみた有益変数	
執筆者	
Karlamangla AS, Sarkisian CA, Kado DM, Dedes H, Liao DH, Kim S, Reuben DB, Greendale GA, Moore AA.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Am J Epidemiol. 2009 Jan 1;169(1):96-104. Epub 2008 Nov 20.	
キーワード	
日常生活動作、飲酒、縦断研究	
要 旨	
<p>目的・背景： 成人における軽・中等度アルコール摂取は心疾患、糖尿病および死亡のリスクの軽減と関連している。本研究では軽・中等度アルコール摂取が身体障害発症のリスク軽減と関連しているか否かを検証する。</p> <p>方法： 対象は合衆国における入院していない成人 4,276 名 (年齢 50 歳以上)。1982 年から 1992 年にかけて行われた合衆国健康栄養調査 (NHANES : National Health and Nutrition Examination Survey) の 3 波における疫学追跡研究データを用いて 5 年間の二つの期間で追跡を行った。</p> <p>結果： 非飲酒に比べて、軽・中等度アルコール摂取 (1 週間に 15 ドリンク未満かつ 1 日に 5 ドリンク未満 [女性は 4 ドリンク未満]) は 5 年間での障害発症や死亡のリスク軽減と関連していた (調整オッズ比=0.77、p=0.008)。生存者でも軽・中等度アルコール摂取は、非飲酒に比べて、障害発症リスクの軽減と関連していた (調整オッズ比=0.75、p=0.009)。層化解析では、「良い」あるいは「より良い」健康と自己申告した男女において障害リスクは軽・中等度アルコール摂取と用量依存性に関連していた。その一方、「あまりよくない」あるいは「悪い」健康状態であると自己申告した男女においてはそうではなかった。</p> <p>結論： 健康状態が良好な年長者では適度なアルコール摂取は障害の発症を減少させるかもしれない。健康状態が悪いものではその限りではないであろう。</p>	